

新興国レポート

# インド 政策金利据え置き

## 3 会合連続の据え置き

- ▶ インド準備銀行は、金融政策決定会合において政策金利を6.0%で据え置くことを決めた。
- ▶ 財政支出の拡大や原油価格の上昇を受け、今後も物価上昇が加速する懸念もある。
- ▶ 消費者物価がインド準備銀行の政策目標の中央値である4.0%を上回って推移する場合、今後は利上げに動く可能性も。

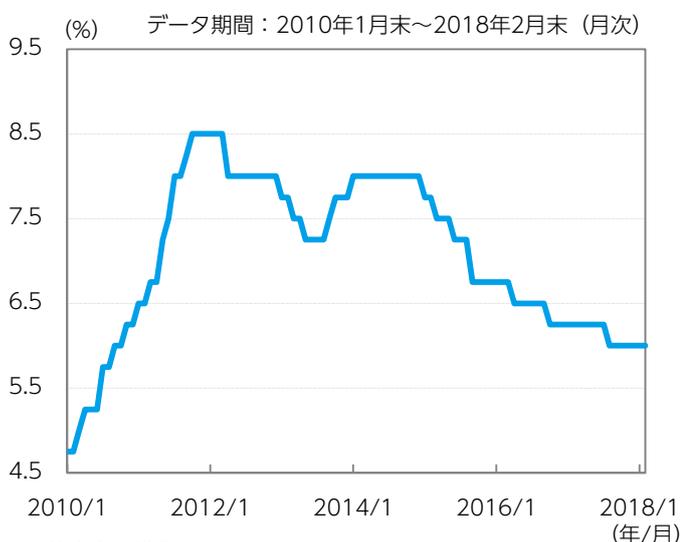
インド準備銀行（中央銀行、RBI）は2月7日の金融政策決定会合において、大方の予想通り政策金利であるレポレート（Repo Rate）を6.0%で据え置くことを決めました。据え置きの決定は3会合連続です（図表1）。金融政策を『中立的な』スタンスに維持することで、インフレが17カ月ぶりの水準に加速する中においても鈍化傾向にある経済を下支えする姿勢を示しました。

インドの消費者物価指数（CPI）（前年同月比）は2017年12月時点で5.2%と、インド準備銀行が政策目標とする2.0~6.0%の中央値4.0%を上回っています。2018年度（2018年4月~2019年3月）予算案で示された財政支出の拡大（前年度見通しに比べ10%増の24.4兆インドルピー（約42兆円））や、輸入額のおよそ2割を占める原油の価格上昇を受け、今後も物価上昇が加速する可能性があることから、今会合で利上げが行われるとの見方も一部ではありました。

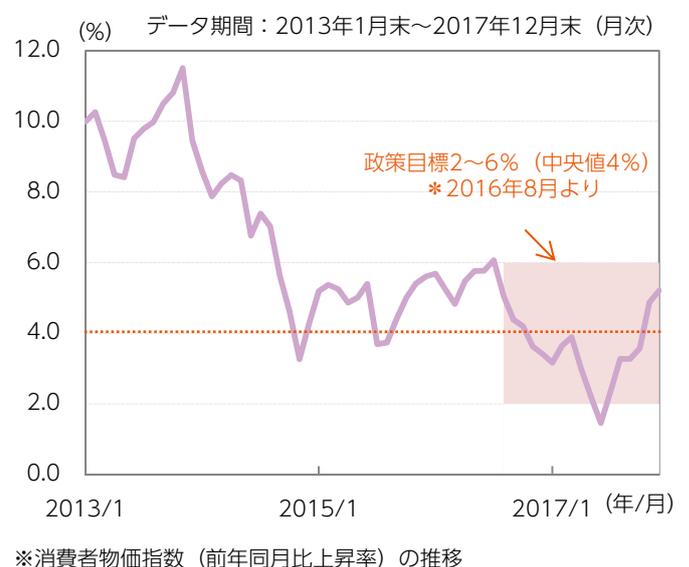
今回の決定に関しては、CPIの算出要素の約半分を占める食料品・飲料の高騰が天候不順等一時的な要因による見方や、米国発の世界的な株価の変調が影響している可能性もあります。

7日のインド10年国債金利は、利上げの見送り等を受けて前日比0.04%低下しました。インド株式（SENSEX指数）は当決定を受けて一旦上昇しましたが、欧米株価の先行き不安等を背景に下落に転じました。CPIが政策目標の中央値である4.0%を上回って推移する場合、次回4月の会合において2014年1月以来となる利上げに動く可能性もありそうです。

図表1：政策金利は6.0%で据え置き



図表2：消費者物価指数は政策目標の中央値を上回る



出所) 図表1、2はブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

## 【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

## &lt;設定・運用&gt;



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>